

表 14 浄土平の火山植生

植生型	メイゲツソウ	ウマスギゴケ	ゴヨウマツ	チシマザサ
調査植分数	12	9	7	9
メイゲツソウ	V 2	I +
ヤマハハコ	II 1	II 1
ヤマタヌキラン	I 1	I 1
イワカガミ	I +	II 1
マルバシモツケ	IV 1	III 1	I +	II 1
ミネヤナギ	III 2	III 1	II 1	III 1
マンネンスギ	I +	III 1
イソツツジ	..	II 1
ススキ	III 1	IV 2	..	II +
ウマスギゴケ	..	IV 2
ヒカゲノカズラ	..	II 1	..	I +
キツネヤナギ	..	II 1	I +	I +
ネバリノギラン	I +	III 1	I +	II +
ヒメスゲ	II 1	IV 1	III 1	II 1
シラタマノキ	II +	III 1	I +	II 1
ガンコウラン	IV 2	V 2	V 3	III 2
ミヤマネズ	I +	II 1	III 1	..
シラネニンジン	I +	I 1	IV 1	II +
クロマメノキ	II 2	II 1	V 3	IV 1
ゴヨウマツ	I +	II +	V 1	III 1
コケモモ	..	I +	II 1	II 1
エゾリンドウ	I 1	III 1	II +	IV 1
チシマザサ	I +	V 3
ハクサンシャクナゲ	I +	II 1
シモフリゴケ	..	I +	..	II 1
ヒロハノコメススキ	II 1
ミツバオウレン	II 1
イワオトギリ	II 1
ハナゴケ	I +	II 1	..	II +
コガネギク	III 1	I 1	II +	III 1
コメススキ	III 1	III 1	III 1	III 1

各植生型の立地的特徴の概要：メイゲツソウ型；火口に近い礫地，ウマスギゴケ型；火口に近い凹地，ゴヨウマツ型；火口から遠い風衝地，チシマザサ型；火口から遠い積雪凹地

V 半自然植生

福島県の山野は，他県の場合と同じく，人間による利用が古くから盛んであり，現存植生の多くはその影響を強く受けて，本来の自然植生とは違った様相をみせている。人為の第一は林木の伐採である。日本人が用いる燃料は，今でこそ外来の化石エネルギーないし鉱物エネルギーであるが，つい最近までは野生の樹木を利用して来た。そのため，自然林はひんぱんな伐採を受け，ひんぱんな萌芽更新をくり返した。このため，保水性の高い富栄養の表土は失われ，貧栄養乾性の土壌におきかえられた。

また，弥生以降盛んになった水稻栽培は，国家規模での水田開発をもたらした。水田そのものは湿原地帯に開発されたが，水田耕作には多量の水を必要とする。そのため，湿原本来の自然給水だけでは間に合わず，堰と称するぼう大な集水機構が建設された。このため，山野の多くが乾燥化の傾向を深めたものと思われる。

こうして，自然林本来の植物のうち，湿润を好み，富栄養の条件下で